認知症サポート委員会の活動

森　山　直　美

キーワード：認知症サポート委員会、雲南市立病院外科・地域総合診療科
（雲南市立病院医学雑誌　2019; 16(1): 175-176）

はじめに

認知症サポートチームは平成30年４月当院に産声をあげた。内科の遠藤健史先生を中心に、認定看護師１名、看護師４名、薬剤師１名、医療相談員（医療ソーシャルワーカー）１名、リハビリテーション技師１名の委員と、リンクナース12名の多職種で構成している。認知症サポート委員会は、認知症になっても本人の意志を尊重し、出来る限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けるために、認知症の人やその家族に早期に関わる「認知症サポートチーム」を配置し早期診断、早期対応に向けた支援体制を構築することを目的とした委員会である。主な、活動内容は、各部に分かれて活動を行い、月１回の委員会で情報共有を行っている。

院内ラウンド部

毎週金曜日に医師、認定看護師、相談員の３人でカンファレンスと病棟ラウンドを行い、病棟スタッフと協働し個々の状態に合わせた対応、ケアプランを検討している。

ユマニチュード研修部

ユマニチュード研修の入門コース（１日）、施設導入準備コース（10日）を受講した看護師４名でユマニチュードの技法を広めていく目的で毎月１回院内研修会を開催している。混乱されている患者様へユマニチュードの技法で対応した実際を動画に収め（同意を頂いて）振り返りをしながら検討している。そして、院外から依頼があれば出前講座として出かけている。

リンクナース会

認定看護師と、各病棟より看護協会主催の認知症研修を受講した看護師13名で構成している。各病棟での対応困難事例、問題を持ちより検討し病棟へ持ち帰り実践指導を行って、「認知症ケアマニュアル」の作成を行っている。

院内デイ

今後活用できるように検討中である。

まとめ

活動は様々に行っているが、基本は「誰もが元気になる」「誰かを喜ばすために」どうしたらいいのかを考えている。入院による環境変化から対応できず、混乱を招き考えもつかない行動をとる患者や日常生活動作が出来なくなる患者もいる。その患者たちが自分の大切な人だったら、両親であったら、私達はどうするか？どんな言葉がけをするのか？を常に考えている委員会であり、みんなが元気になるための委員会として活動している（**図１**）。

雲南市立病院認知症サポート委員会、同看護部看護科
著者連絡先：森山直美　雲南市立病院看護部看護科〔〒699-1221 雲南市大東町飯田96-1〕
E-mail: kangobu@hotaru.yoitoko.jp

図１　認知症研修会

Activities of the committee for dementia support in Unnan City Hospital.

Naomi Moriyama

Committee for dementia support, Department of nursing care, Unnan City Hospital
Correspondence: Naomi Moriyama, Department of nursing care, Unnan City Hospital〔96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN〕
Telephone: 0854-47-7500 / Fax: 0854-47-7501
E-mail: kangobu@hotaru.yoitoko.jp